

会 議 録

会 議 名	令和7年度第3回東松山市文化財保護委員会議					
開 催 日 時	令和8年2月12日（木）			開 会	10時00分	
				閉 会	11時30分	
開 催 場 所	東松山市総合会館3階 303会議室					
会 議 次 第	1. 開会 2. あいさつ 3. 議題 (1) 令和7年度事業報告について (2) 令和8年度事業計画（案）について 4. 報告 5. その他 6. 閉会					
公開・非公開の別	公開		傍 聴 者 数	0人		
非公開の理由 (非公開の場合)						
委員出欠状況	委員長	小澤 謙一	出席	委 員	栗原 直子	出席
	副委員長	小澤 弘	出席	委 員	林 龍生	出席
	委 員	荒井 豊	出席	委 員	柳 正博	出席
	委 員	内田 博	出席			
事 務 局	田嶋 靖洋 生涯学習部長			佐藤 幸恵 埋蔵文化財センター主幹		
	上 敏文 生涯学習課長			矢口 翔馬 埋蔵文化財センター主査		
	左納 徹 埋蔵文化財センター所長					

次 第	顛 末
1.開 会	左納所長
2.あいさつ	小澤謙一委員長
会議の公開、 会議録署名 委員の指名	<p>○会議の公開、傍聴人、会議録署名委員の指名について （左納所長）会議を公開とするか非公開とするか、傍聴人の申込みがなかったこと、会議録の署名委員を指名することについて、説明。</p> <p>・会議については公開、傍聴人は申込がなかった。会議録署名委員は小澤弘委員と内田委員を指名することについて、全員了承。</p>
3.議 題	<p>（1）令和7年度事業報告について</p> <p>●文化財啓発事業</p> <p>〈矢口主査〉説明</p> <p>〈林委員〉埋蔵文化財センター展示室の団体受け入れの中に、桃の木保育園とあるが、職員の見学なのか、子供の見学なのか。</p> <p>〈矢口主査〉子供です。</p> <p>〈林委員〉子供にどのような説明をするのか。</p> <p>〈佐藤主幹〉例えば埴輪を見せて、『大昔の人のお墓を飾ったお人形ですよ』くらいの話をする。</p> <p>〈林委員〉小さい頃からそういうものに興味を持つのはよいことである。ほかにも広がっていけばよい。</p> <p>〈柳委員〉幼さな過ぎて工夫が必要かもしれないが、小さい頃から文化財に親しむのは良いことである。その中から、一人でも二人でも文化財に関心を持つ大人になってくれれば良い。</p> <p>〈小澤弘副委員長〉小・中学校は見学に来るのか。</p> <p>〈佐藤主幹〉コロナ禍以降はない。</p> <p>〈小澤弘委員〉ヨーロッパの都市部では、母親が子供を乳母車に乗せて博物館にやって来る。子供はまだ理解できないけれど、施設にあるものを皮膚感覚で感じるという教育が行われていく。せめて小・中学生が来るチャンスを学校教育の中で続けてくださると良い。学校教育関係にぜひ伝えてもらいたい。</p> <p>〈小澤謙一委員長〉足を運ぶということは重要である。</p> <p>〈矢口主査〉埋蔵文化財センターという場所があって、何か困ったら埋蔵文化財センターに聞けばわかるということを知ってもらうことも効果があると考えているので、心がけて普及啓発をしていきたいと思う。</p>

〈小澤謙一委員長〉下唐子の冑塚古墳の発掘調査を、小学校4年生の時、行き帰りに見ていた記憶が残っている。

〈柳委員〉目で見える埋蔵文化財である古墳が多いのは東松山市の強みである。

〈小澤謙一委員長〉全部の学校が埋蔵文化財センターに行くわけにもいかないから、地域を学ぶ時間のような時に、地域の中にあるものを見てもらうのもよいと思う。

〈栗原委員〉野本小学校に勤務していた頃、埋蔵文化財センターまで小学校から歩いて見学に連れて行った。

〈小澤弘副委員長〉出前講座があったのではないか。

〈矢口主査〉1時間の授業であっても準備に相応の時間と労力がかかるので、たくさんの小・中学校から申し込まれた場合、限られた職員数では全部は受けきれない実態があり、基本的には、注文を受けた場合のみ行っている状況。出前講座用の資料は用意しており、話が来た時には積極的に受ける準備はしている。また、例えば発掘調査現場に遭遇した小・中学生が興味を持ってということもあるかもしれないので、学校での出前講座だけでなく、普段の我々の事業に小・中学生を取り込んでいくこともできると考えている。普及啓発事業の中で若年層の取り込み方を検討していきたい。

〈栗原委員〉(野本小学校に勤務していた頃)隣接している將軍塚古墳を見学するのに誰に相談をしてよいのか分からなかった。埋蔵文化財センターという考えがなかった。

〈矢口主査〉ほとんどの指定文化財が所有者・管理者の管理の下で維持されており、承諾は必要となるので、事務局で文化財の所有者・管理者とコミュニケーションをとって、仲立ちとなれるようにしていきたい。

〈栗原委員〉先日、文化財保護委員・専門調査員の合同研修で吉見町に行った際、松山城が所在する土地が個人所有から町所有になったと聞いた。東松山市でも史跡を公有地化できないのか。

〈矢口主査〉松山城は国指定史跡であり、その保存活用計画には史跡の公有地化をうたい、公有地化のために国庫補助金を活用できている。それでも、一朝一夕に公有地化ができるわけではなく、長いスパンをもって取り組んでいる。さらに公有地化した後、除草などのランニングコストもかかるので、管理をどうしていくか見通しが立たないと簡単に公有地化はできない。そういったことを含めて、公有地化していくかどうか

委員の皆さんの意見などをいただきながら考えていきたい。

〈小澤謙一委員長〉文化財パンフレットの印刷部数と金額、配布方法は。

〈佐藤主幹〉1000部。編集までこちらで行っているのので、印刷代のみであり68,200円、埋蔵文化財センターで希望者に配布している。

〈小澤謙一委員長〉これまで何種類作ったか。

〈矢口主査〉7種類作った。

〈小澤謙一委員長〉こういうものがあると参考になって良い。

〈柳委員〉民俗芸能保存連絡協議会加盟の「たこつき唄」の会長さんがお亡くなりになった。他にこのような芸能はないので大変貴重。できればコンタクトをとって存続を図っていただければと思う。

〈矢口主査〉同会長さんについては、上岡観音絵馬市保存会の会長さんでもあり、多大な尽力で継続できていた面があり、会長さんが亡くなったことによりどうなっていくのか、推移を見守り、できることをやっていくしかない状況である。「たこつき唄」保存会は、会長がご存命のうちから東松山市民俗芸能保存連絡協議会では休止状態になっている。会員の理解を得て脱会ではなく、休止という形にしてあるので後継者が再開すると言えば再開できる状態にしている。

〈小澤謙一委員長〉「金谷の餅つき踊り」もそのような状態から再開した。後継者がいないなどあるが、どうにか繋いでもらえればよい。

●文化財保存事業

〈矢口主査〉説明。

〈小澤謙一委員長〉正代の「阿弥陀一尊板石塔婆」について、水害の関係で住まいは移転し、板碑だけ現地に残っている状態であるが、住まいの側に移設した方が管理しやすいと思うが、移設にあたって予算的に市で何かできるのか。

〈矢口主査〉所有者に移設の意向があることは聞いている。移設の費用と現状覆屋もかけてあるので、移設後の覆屋の設置の費用が指定文化財保存事業費補助金の対象となる。市で設置している解説板の移設は普及啓発事業の中の経費と想定される。所有者がもたなければならない費用もあるので、所有者の方の状況を踏まえながら話をして行こうと考えているところである。

●文化財調査事業

〈矢口主査〉説明。

質疑応答なし

●埋蔵文化財センター運営事業

〈矢口主査〉説明

〈小澤弘副委員長〉埋蔵文化財センターの冷暖房機の修繕具合は

〈佐藤主幹〉埋蔵文化財センターの空調機は 6 系統に分かれており、すでに 4 系統が壊れて入れ替えた。残り 2 系統（資料保管室、第一収蔵庫）がセンター建設当時のままである。

〈小澤謙一委員長〉埋蔵文化財センターのオープンは。

〈矢口主査〉平成 10 年。

〈小澤謙一委員長〉いろいろと壊れてくる時期になっている。

〈小澤謙一委員長〉以上、令和 7 年度事業報告について、承認でよろしいか。

〈全員〉承認

〈小澤謙一委員長〉では、議案第 1 号については承認する。

(2) 令和 8 年度事業計画（案）について

〈矢口主査〉説明。

〈矢口主査〉普及啓発事業で、つい先日依頼があったことなので会議資料に掲載していないが、埼玉県立嵐山史跡の博物館が国立女性教育会館で開催していた文化財講座を東松山市の施設で共催事業としてできないかとの相談があった。1 回 200 名近くの参加者があるということで、市としては前向きに捉えており、松山市民活動センターホールを確保して、共催事業として実施を考えている。

〈柳委員〉昔は嵐山史跡の博物館の講座室で開催していたが、受講者が入りきれないほど受講者が増えているということか。

〈矢口主査〉博物館の講座室は 100 人も入らないので、規模が大きくなっている。

〈小澤謙一委員長〉松山市民活動センターのホールか。

〈矢口主査〉ホールを予定している。

〈柳委員〉地元の歴史に関心のある人が増えるのは良いことである。

〈矢口主査〉講師の選定や受講者の募集、広報などは嵐山史跡の博物館

